

タケハラジエンヌに

喝采を！

Vol.4

明けましておめでとうございませう。広報たけはら1月号では、「熟年フアイターズ」でおなじみ、広島ホームテレビの伊藤みのりさんを「タケハラジエンヌ」として紹介します。市制60周年記念イベントで行われた、渡辺弘基さん（広島東洋カープOB）とのトークショーはまだ記憶に新しいところ。お話を伺うと、明るいマシンガントークの中に、女性管理職ならではの、優しい気遣いを感じる事ができました。

平成30年7月の豪雨災害。被災地の状況を伝える情報発信について、貴重なお話を伺うことができました。竹原市にある伊藤さんのご実家も被災されたとのこと。被災後、実家には動き出した新幹線で三原まで行き、レンタカーでなんとか竹原に入ることができました。実家は床下浸水でしたが、家に着くまでに見た景色は、子どもの頃から知っている穏やかな竹原の表情ではなく心が締め付けられました。会社に戻ったあと、竹原で見た状況を伝え、被災された方に少しでも早く役立つ情報を届けたいと、竹原市など被災した自治体に協力して頂き、必要な情報を調べ番組を通してお伝えしました。」

「お待たせしました！」元気な声と共に現れた伊藤みのりさん。「今、外から帰ってきたんですよ！」会社の近くへオープンしたばかりのパン屋さん。オープン前の宣伝もほとんどなかったのに、連日大盛況なのだから。」

「オーナーは女性で、『理想のパン屋さん』を作るために頑張られている方なんです。素敵なパン屋さん、一番に紹介したいでしょ！女性アナウンサーと一緒に取材交渉してきたんですよ……」

情報は鮮度が命。気になった情報は真っ先に取り上げたい、そんな想いを感じました。

縁の下の力持ち

広島ホームテレビのアナウンサー、中西希さんと斉藤亜緒衣さんが、「HOME女子アナカレンダー」を販売するイベントに同行させて頂きました。イベントの間、お二人の側では、伊藤さんがファンへ対応されます。販売を呼びかけたり、カメラのシャッターを切ったり。ファンのみなさんへの心配りを行いながらも、イベントの秩序

をしつかり保つ。そんな姿が印象的でした。

「私は今は、アナウンサー達のマネージャー業をやっているんです。」視聴者の皆様にHOMEテレビのアナウンサーを身近に感じて頂けるよう、イベント企画を考へることも大好きなんです。でも、若いアナウンサー達は、もっと豊かなアイデアを持っていて、お花いっぱいパネルとフォトプロップス※を準備して、イベントを飾ったんですよ！」

華々しいイメージのあるアナウンサーという職業。伊藤さんは、その仕事に情熱を注ぎながらも、



一度始まったら終わらない！マシンガントークが魅力！ 伊藤みのりさんのプロフィール

竹原市東野町出身。自らもアナウンサーとしての仕事に30年以上情熱を傾ける傍ら、「地域のみなさまに愛されるアナウンサー」を育てることを目標に掲げ、後進の指導にあたり、現在は、広島ホームテレビ総合編成局アナウンス部長を務める。

好きな食べ物は？

母の作る肉じゃが！吉名産のじゃがいもは最高です。

尊敬する女性は？

ジャーナリストの櫻井よしこさんです。以前、一緒にお仕事させていただいたことがあり、意思の強さと、周囲への細かな心配りに、感動しました。

「※フォトプロップス」とは？



写真撮影の時に持つ小道具のことです。メガネ・髭などのイラストや吹き出し、メッセージなどをボードに描いて、写真を彩ります。

『縁の下の力持ち』として、部下を守りながら、のびのびと、仕事を楽しんで、成長してもらえよう、心を配っていらっしゃいました。